

日時：平成29年2月21日（火）10：00～11：15

場所：市役所第4会議室

出席者：市長、副市長、理事、企画部長、総務部長、民生部長、建設部長、農林水産部長、復興局長、防災局長、教育次長、消防長、財政課長

取材者：建設新聞社、岩手放送、東海新報社、岩手日報、共同通信社、岩手朝日テレビ、河北新報、読売新聞、ジャパントイムズ、朝日新聞、岩手建設工業新聞、毎日新聞（敬称略、順不同）

## 市長挨拶

3月11日で東日本大震災から丸6年を迎えます。私たちにとっては6年というより「七回忌」という空気が強いと感じます。去年は丸5年ということで全国のメディアの取材も多く、風化を防ぐ意味ではありがたかったですが、今年は被災者、遺族一人ひとりの心の節目を迎えるという大事な場面になると思います。本日は平成29年度一般会計をはじめとした新年度予算案について項目に上っております。復興も着々と進んでおりますが、やらないといけないことは山積しており、被災者の期待に応えられるようにという思いで予算を組ませていただきましたので、その点についてお話をさせていただきますと思います。

## 会見項目

### （1）平成29年第1回市議会定例会について

市長）

会期は2月22日から3月14日までの21日間です。

一般質問は11名が予定されておりますが、予告通告でありまして、現時点で3名の議員から具体的な通告をいただいております。

提出案件であります。報告が3件、提出議案が36件であります。

はじめに、報告第1号であります。陸前高田市広田公民館建設工事の変更請負契約に関する専決処分の報告で、給排水設備等の設計変更に伴うものであります。

報告第2号は、脇ノ沢・両替漁港災害復旧工事の変更請負契約に関する専決処分の報告で、堤体コンクリート撤去工事の設計変更に伴うものであります。

報告第3号は、市公用車と民間車両の接触事故による損害賠償事件で、損害賠償の額を定めることについて、専決処分をしたので報告するものです。

次に、提出議案であります。

議案第1号から議案第3号までの3件は、高田松原津波復興祈念公園の整備、高田地区・今泉地区土地区画整理事業に伴い、市道47路線の廃止、4路線の変更、47路線の認定をしようとして提案するものであります。

議案第4号は、高田松原地域資源活用総合交流促進施設整備工事の施行に関する基本協定締結についてであります。道の駅「高田松原」の整備にあたり、国土交通省東北整備局との間で、市の施設整備工事の施行に関して基本協定を締結しようとして提案するものであります。

議案第5号、議案第6号は、災害公営住宅の変更譲渡契約締結についてであります。長部地区災害公営住宅、今泉地区災害公営住宅の部屋タイプに変更が生じたため、それぞれ変更譲渡契約を締結しようとして提案するものであります。

議案第7号は、陸前高田市被災市街地復興整備事業の変更業務委託契約締結についてであります。今泉地区区画整理事業関連地区外造成事業に変更が生じたため、変更業務委託契約を締結しようとして提案するものであります。

議案第8号は、財産の無償貸付についてであります。市立高田東中学校旧校舎の一部を4月から陸前高田グローバルキャンパス運営機構に貸し付けようとして提案するものであります。

議案第9号、議案第10号は、財産の取得についてであります。議案第9号は、陸前高田市立図書館の備品の買い入れ、議案第10号は、陸前高田市立図書館の建物を取得しようとして提案するものであります。

議案第11号は、財産の処分についてであります。国土交通省が施行する道の駅「高田松原」整備事業の用地として市有地の一部を処分しようとして提案するものであります。

議案第12号は、平成28年度陸前高田市一般会計補正予算（第7号）についてであります。

今回の補正の内容ですが、日本大震災復興関連基金積立金のほか、年度末を控え各事業費の精算に伴う予算を計上しているところとございまして、歳入歳出予算の総額から、60億5,190万円を追加し、歳入歳出予算の総額をそれぞれ789億5,229万3千円とするものです。

議案第13号から議案第18号までは、下水道事業特別会計から水道事業会計までの補正予算であります。説明は割愛させていただきます。

議案第19号は、陸前高田市情報公開条例の一部を改正する条例であります。独立行政法人通則法の一部改正に伴う改正であります。

議案第20号の、陸前高田市個人情報保護条例の一部を改正する条例は、行政手続に

おける特定の個人を識別するための番号の利用等に関する法律等の一部改正に伴う改正であります。

議案第21号は、陸前高田市職員の勤務時間、休日及び休暇に関する条例の一部を改正する条例であります。育児を行う職員の深夜勤務等の制限の対象となる子の範囲の拡大、介護を行う職員の時間外勤務の制限、介護休暇の取得方法の変更及び介護時間の新設をしようとして提案するものであります。

議案第22号の、職員の育児休業等に関する条例の一部を改正する条例は、地方公務員の育児休業等に関する法律の一部改正に伴う改正であります。

議案第23号は、陸前高田市市税条例の一部を改正する条例であります。地方税法等の一部改正に伴う改正であります。

議案第24号の、東日本大震災の被害者に対する市税の減免に関する条例の一部を改正する条例は、平成29年度においても減免を行うため、改正するものであります。

議案第25号は、陸前高田市玉山休養施設条例の一部を改正する条例であります。陸前高田市玉山休養施設の使用料を改定しようとして提案するものであります。

議案第26号の、陸前高田市漁港管理条例及び漁港の区域内の水域又は公共空地における土砂採取料等の徴収等に関する条例の一部を改正する条例は、占用料を改定しようとして提案するものであります。

議案第27号は、陸前高田市介護保険条例等の一部を改正する条例であります。介護保険法施行令の一部改正に伴う改正であります。

議案第28号は、陸前高田市市営住宅条例の一部を改正する条例であります。本年度完成する災害公営住宅を市営住宅として管理することに伴い所要の改正をするとともに、市営住宅和野団地の戸数を減じようとして提案するものであります。

議案第29号から議案第36号までは、平成29年度予算（案）であります。内容につきましては、このあと、別途説明をいたします。

以上で議案の説明を終わります。

#### 【質疑】

なし

## (2) 3月～5月の行事予定について

- ① 高田松原津波復興祈念公園起工式の開催について
- ② 平成28年度東日本大震災追悼式について

### 【質疑】

質問)

第1に、楽天野球団との協定について、ハード面での支援で進んでいるものがあれば教えていただきたいです。第2に、グローバルキャンパスについてどのような活用法を想定されていますでしょうか。

市長)

グローバルキャンパスは立大、岩大がそれぞれ独自のプログラムをお考えです。市としてもこういうプログラムを作ってほしいと要望しております。防災学習のフィールドとして活用していただいという思いですので、例えば防災担当者のセミナーを開くなど受け皿を作っていきたい。もちろん市民を巻き込みながら、高校生など若者との交流を進めていきたいと考えております。

建設部長)

楽天野球団からはバックネットのようなボードの支援を受けるということです。そのほか、今後のことになりますが、運動公園に新設される野球場の施設整備についても支援いただけるという話は聞いております。

質問)

高田松原津波復興祈念公園がいよいよ起工されるということで、市長の今のお気持ちを伺えますか。

市長)

当時あれだけの被災をして、高田松原を中心に海の辺りをどうしていいかわからない中で、いろいろな方々や国のご支援をいただいて、震災を忘れない、記憶をしっかり伝承していくための追悼・鎮魂の施設を陸前高田市に作っていただくという話になった時、私たちは喜びと強い思いを持っていました。6年を迎える直前に着工されることは大変うれしく思っていますし、市民の期待に応えられる公園になるよう国や県と相談しながら進めてまいりたいと思います。

質問)

追悼式では遺族の方が「追悼のことば」を述べられる部分があるようですが、被災自治体では地区を一巡したなどの理由から、式典から遺族の言葉がなくなっているところもあります。遺族が追悼式で話をする事について、市長のお考えを伺います。

市長)

本市にご遺族はたくさんいらっしゃいますが、人前で気持ちを吐露したいという気持ちにはなかなかない。これまでお願いしてきたわけですが、今後続けていくのも困難になるのかなと思っています。一方で、現在は市主催で追悼式を行っておりますが、遺族の方々でやりたい方法を教えてもらいながら、市役所が手伝うのが将来的に良いと

も考えております。今後、方向性を考えなければならないと思います。

### (3) JR大船渡線BRT「まちなか陸前高田駅」新駅設置について

#### 【質疑】

質問)

新年度のダイヤでは、まちなか陸前高田駅に上下何便くらい停車する予定でしょうか。  
企画部長)

市役所前の陸前高田駅と高田高校前駅の間にはできますので、現行の同区間とほぼ同じ、上下60数本が停車すると見込んでおります。

### (4) 平成29年度当初予算(案)について

#### 【質疑】

質問)

当初予算が前年度より増となった要因は何でしょうか。

財政課長)

高田地区土地区画整理事業と都市計画街路整備事業費が大きな要因です。

復興局長)

高田地区は平成29年度、一部の高台造成地を除き全て引渡しとなり、中心市街地も引渡しが進むことから、二次造成工事の拡大による事業費増を見込んでおります。

質問)

歳入について、市税が減少した要因と市債が増加した要因を伺います。

市長)

市税に関しては復興の先を見越し、企業が税でなく給与分配を図っていかうという動きがあるのではないかと思います。

財政課長)

市債については新庁舎建設に向けた財源や公共施設等の整備による借入れによるものです。

市長)

市役所新庁舎整備事業費は、現在新庁舎案を3案出させていただいておりますが、どれに決まっても困らないような額を提示しており、最終的に決まれば落としていくものもあると思います。

質問)

本予算の目玉や特徴はどこでしょうか。

市長)

復興を進めるのが大前提ですが、ふるさと納税では寄付者の方から「こういうことに使ってほしい」という用途指定を受けており、これを併せたかたちで事業を具体的に組

んだのは初めてのことです。寄付者の意向に沿ったまちづくりができることはありがたいですし、そこが特徴とも言えます。

質問)

陸前高田思民制度について、どのように活用したいか思いをお聞かせください。

市長)

まち・ひと・しごと総合戦略を策定した時から申し上げていますが、ふるさと納税をされた方は規則性を持って思いを抱いているので、そこを突破口として思民制度を立ち上げたものです。これまでの関係性をどう末永く築いていけるかという意味ではメリットが大きい制度であり、地道に関係性を保つかたちを構築していきたいと思えます。

質問)

ふるさとタクシー助成事業について、対象エリアや人数、配布方法などについて現段階での想定状況はいかがでしょうか。免許返納へ向けた取組みも行うのでしょうか。

民生部長)

最初から市内全域だとニーズがつかみきれませんので、矢作町、横田町、広田町など遠隔地で先行して実施していきたいと考えております。免許返納に関しては警察との連携によって認知症の方などの安全確保と移動手段確保に努めたいと考えており、全体のニーズの把握は精査しておりません。予算規模の中で対応したいと考えております。

質問)

1人当たりいくらぐらいになるか目途はありますか

民生部長)

障がい者の方のタクシー助成事業では月2枚で年間24枚配布しておりますが、なかなか利用が進んでおりません。週1回の外出+通院ということで月6枚が一つの目安ではないかと考えております。1枚500円程度を見ております。

質問)

予算に市庁舎整備事業費が盛り込まれていますので伺います。新庁舎をどこにするか、案の示し方によっては庁舎位置の変更に関する条例改正が必要となると思いますが、今回の議案には入っておりません。いつ、どのようなかたちで提案されるお考えでしょうか。また、2案（現庁舎位置で再建）の場合、庁舎の住所は変わらないので条例改正しなくてもいいということになるかと思いますが、その場合の意思の示し方はどうお考えでしょうか。

市長)

本日午後に復興計画推進委員会が開かれますが、その委員の方のご意見を聞いておりません。定例会当初での提案はありません。流れからすれば3月6日に本会議がありますが、そこでの追加提案になるかと思えます。

総務部長)

仮に2案としても「この場所にこだわらず近辺に」という意見もありましたので、現住所の高田町字鳴石42番地5からずれる可能性もあります。いずれ、2案のままとな

れば、条例提案は行わないということです。

質問)

条例提案を行わない場合、議会や市民への説明はどうされますか。

市長)

復興対策特別委員会が随時行われておりますので、2案の場合、そちらの場で説明となると思います。それぞれ意見を持っておられる議員さんがおられるので、議案として出ない場合はそれなりのモーションは起こってくるだろうと思うし、市民の皆さんに呼びかけている以上、表舞台で経緯なり結果なりが分かるかたちに持っていかないとうまくない。そういう意識でおります。

## <その他>

質問)

震災から6年を控え、復興計画策定当初と比較しての課題と進捗状況をお伺いします。

市長)

復興状況の進捗はほとんど予定どおりではありますが、ポイントポイントでの課題を残し、遅れている場合もあるので、そういった意味で課題はまだ数多くあります。例えば高田松原の防潮堤は整備されていますが、米崎町の海岸部は地権者との合意に至っておらず行方が見通せないことから心配する声も聞こえてきます。私たちは法に則って事業を進めておりますが、タイムラグによって事業進捗に差が出ております。

質問)

かさ上げ地の新市街地に賑わいを回復させる上で新年度が正念場と思いますが、換地後の宅地に戻る人は少ないようです。賑わい回復をどうみていらっしゃいますか。

市長)

祈念公園や道の駅、伝承施設などには一定の誘客を見込んでいますが、その人たちをどうやって新市街地に人を呼び込むかが課題であります。一定の賑わいを作るということでは過去の陸前高田のレベルから言えば希望が持てないわけではない。ただ、換地した住宅地にどれくらい家が建つかは大きな課題があります。土地区画整理事業で元々の土地を復元し地権者にお返ししたとして、地権者が20筆土地を持っていてその方が自宅を建てても残り19人については何の保証もないわけです。この制度から言うと当然空き地は出てしまう。震災復興にあつて区画整理事業という手法を使うのであれば、特別な、復興するための新しい区画整理事業とも言うべき制度がないと、多額のお金と時間をかけてやりましたけど結局は空き地ができましたということにならざるを得ない。我々はそれでいいとは思いませんから、民間と相談しながらその土地が有効に使われる視点を探ろうと考えております。

質問)

被災地では人口減と高齢化が急速に進んでいますが、対策や、感じている点はありませんか。

市長)

自然減は抑えが利きません。非常に高齢者が多いし、子供たちの数も激減している。

これは震災も影響していて、夫を津波で失った妻が実家に帰るなどして産める年代の女性が市外に出ていっています。いろいろな工夫をしながら、市外の方々に陸前高田を知ってもらい遊びに来ていただく、その中でかさ上げ部の空き地の有効活用等につなげられればよい。一朝一夕で「何かすれば人が来る」というわけにはいきません。

質問)

広田診療所の現在の診療体制と、4月以降の診療体制について伺います。

民生部長)

現在、月曜日午後は高田病院から医師応援をいただいております、火曜日は逆に広田診療所利用者を高田病院までバスで送迎しております。水曜日午後は隔週で済生会陸前高田診療所の医師がいらして、木曜日は第4木曜日のみ大船渡病院から医師応援を受け、金曜日は雫石町の医師に来ていただいております。新年度からは新しい常勤医師をお迎えしたいのですが、医師確保の状況は大変厳しく、場合によっては再度協力をお願いすることも検討しております。

質問)

高田病院への送迎で、小友町方面も経由してほしいとの声があるようです。

民生部長)

送迎バスの利用者はかなり少なく、ニーズがどれだけあるのか疑問があるのが正直なところです。

以 上